

28KA-am02

6年生薬学教育におけるフレッシューズセミナーの意義

○中越 元子¹, 土原 和子¹(いわき明星大薬)

【目的】いわき明星大学薬学部では、「生徒」から「自ら考える学生」への変化を支援する授業として「フレッシューズセミナー (FS)」を展開している。この授業を通して、学生はスチューデントスキルとスタディースキルを獲得する。この成果として、学生自らが自己目標を設定した上で主体的に行動する自立力と、自己管理できる基礎力を身につける。さらに、薬学専門教育への橋渡しとなる基礎知識・技能に関する学びにより、薬学生としての意識を高める。我々はこのFS教育を、「学生個々人の自立力と基礎力を向上させ、薬学知識を持続的に習得して、社会貢献出来る薬剤師育成」のための導入教育として位置づけている。

【方法】各班2名ずつのチューター教員がファシリテーターとなり、9～10名編成のグループ活動を1年前期に週2コマ展開した。例えば、学生全員が薬学に関連するさまざまな講話を聴講し、その都度進行役と書記を決め、講話内容に関して一定時間グループ討論を行った。その後、一堂に会してグループの代表者と講話の演者との質疑応答がなされた。また、討論課題に応じては、ポスターによるグループ発表やパワーポイント、書画カメラを用いた個人発表を行い、その下調べ過程でレポート作成等のスキルを学び、各自がポートフォリオを作成した。

【結果及び考察】入学当時は、人前でなかなかしゃべることもできなかった学生も、回を重ねるごとに目に見えて積極性を増していった。学生自身は本授業を受けたことにより、毎週書かされるレポートが大変であると思う一方、「話を聴く、考える、文章を書くことが出来るようになった」、「人前で自分の意見を述べるができるようになった」等と評価している。今後も、自らが考え、判断し、実行できる学生の育成を目指して、FSのバージョンアップを続けたい。